

感染症発生動向調査 週間コメント

《疾病別 推移グラフ》

228820

第18週 (H29.5.1～H29.5.7)

■今週のトピックス

▽ 今週(2017年第18週:5/1-5/7)は連休を含むため前週比較は困難です。インフルエンザは減少しキットはB+が大部分です。感染性胃腸炎ではロタウイルスが多くノロウイルスは少数です。

大型連休等での旅行・移動等による感染曝露に伴う流行発生にご注意下さい。

▽ 全国情報で麻疹が増え続け、県内から今週はないが計4例報告があります。流行拡大にご注意下さい。

病 名	報告数	前週比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	307	49%	福岡151、北九州111	1.55	3.13
RSウイルス感染症	29	-25	福岡15、筑後6	0.24	0.28
咽頭結膜熱	56	100%	福岡34、筑後11	0.47	0.48
A群溶連菌咽頭炎	355	78%	福岡241、北九州58	2.96	2.69
感染性胃腸炎	653	72%	福岡297、北九州157	5.44	6.60
水痘	72	85%	福岡37、筑後17	0.60	0.36
手足口病	104	95%	福岡70、筑後19	0.87	0.43
伝染性紅斑	3	+2	筑後2、福岡1	0.03	0.07
突発性発しん	77	85%	福岡39、北九州17	0.64	0.52
百日咳	1	-2	北九州1	0.01	0.01
風しん	0	±0		0.00	
ヘルパンギーナ	46	82%	福岡37、北九州5	0.38	0.07
麻疹	0	±0		0.00	
流行性耳下腺炎	61	82%	福岡35、筑後15	0.51	0.53
川崎病(MCLS)	8	+6	福岡7、北九州1	0.07	
マイコプラズマ肺炎	11	-14	北九州7、筑後2	0.09	0.25
クラミジア肺炎	0	-2		0.00	0.01
細菌性髄膜炎	0	-1		0.00	0.04
無菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.03
急性脳炎	0	±0		0.00	
急性出血性結膜炎	0	±0		0.00	0.01
流行性角結膜炎	6	-8	筑後2、福岡2	0.23	0.56
性器クラミジア感染症	14	-5	福岡10、筑後2	0.38	
性器ヘルペス	10	+2	北九州5、福岡3	0.27	
尖圭コンジローマ	1	-4	福岡1	0.03	
淋菌感染症	8	-5	福岡4、北九州2	0.22	
梅毒	3	+3	福岡2、北九州1	0.08	

全国情報は平成29年17週分です。全国情報ではマイコプラズマ肺炎120、クラミジア肺炎6例。

平成29年第17週までの累計は、急性灰白髄炎0、結核6937(県内284)、コレラ0、細菌性赤痢51(県内7)、腸管出血性大腸菌感染症295(今週29、県内今週1、計18)、腸チフス14(県内0)、パラチフス5、E型肝炎123、A型肝炎95(今週6、県内2)、オウム病5、ジカウイルス感染症1、SFTS3(県内0)、チクングニア熱1、つつが虫病46、デング熱62(県内0)、日本紅斑熱11、日本脳炎0(県内0)、マラリア11(県内0)、レジオネラ症377、アメーバ赤痢343、ウイルス性肝炎91(県内2)、急性脳炎256(県内16)、クロイツフェルト・ヤコブ病56、劇症型溶連菌感染症195(県内10)、後天性免疫不全症候群414(県内20)、侵襲性インフルエンザ菌感染症125(県内9)、侵襲性髄膜炎菌感染症11、侵襲性肺炎球菌感染症1295(県内66)、水痘(入院)77(県内4)、先天性風しん症候群0、梅毒1523(県内72)、風しん32(今週6、県内0)、麻疹158(今週8、県内4)例。1類感染症の報告はない。



バリ島（インドネシア）を含む アジアの国々から帰国された皆様 帰国後麻しん（はしか）を 発症する人が増えています

次の症状が認められたら、麻しん（はしか）かもしれません
発熱、せき、鼻水、目の充血／目やに、発しん（赤いぶつぶつ）

その際は、公共交通機関の使用、人が集まる所に行くのは避けましょう
症状・渡航先を電話連絡の上、急ぎ医療機関を受診してください

尚、1歳以上で麻しん（はしか）を含むワクチン（麻しんワクチン、麻しん風しん混合（MR）ワクチン、麻しんおたふくかぜ風しん混合（MMR）ワクチン）を2回受けた記録が残っている人、あるいは、麻しん（はしか）にかかったことが確実（検査で確認）な人は心配いりません。

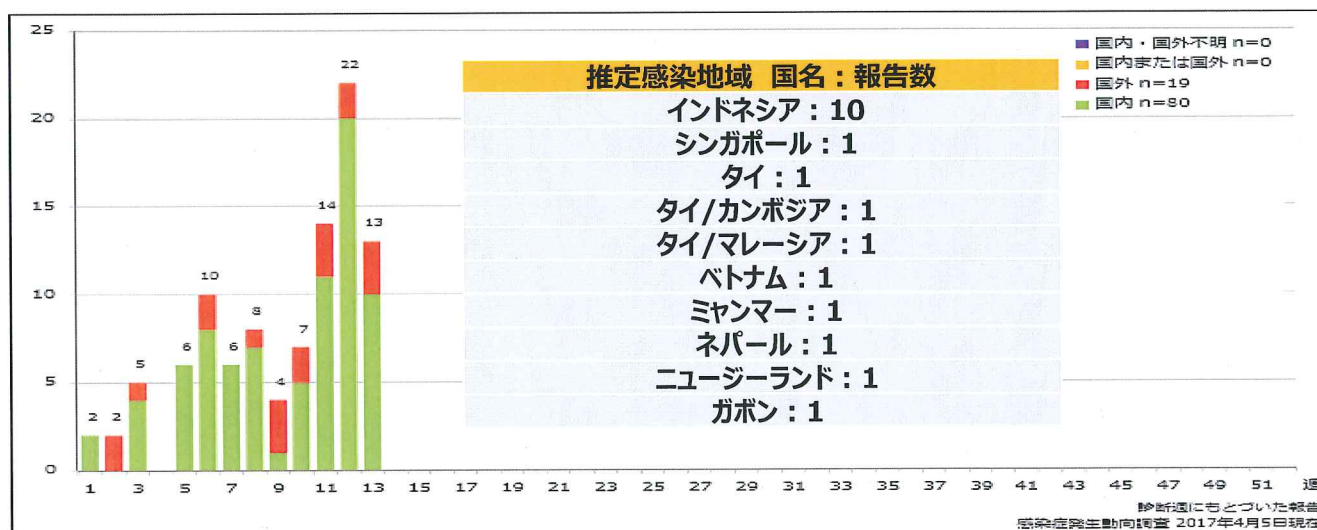


図 麻しん報告数 2017年 第1～13週 (n=99)
2017年4月5日現在

平成29年4月28日

健康危機管理課

インドネシアから帰国した麻しん（はしか）患者の発生について

平成29年4月27日（木）、八代市内の医療機関から八代保健所へ麻しんの疑いの届出があり、県で検査を行ったところ、麻しん陽性であることが判明いたしました。

この届出に基づき、八代保健所で患者の行動歴の調査を実施したところ、当該患者は4月23日（日）までインドネシアに滞在しており、患者が利用した交通機関、医療機関等で接触された方は、麻しんに感染している可能性がありますので、広く情報提供いたします。

1. 利用した交通機関、医療機関等の情報

【利用した交通機関】

○航空機（インドネシア空港～マニラ空港～福岡空港）

4月23日（日） 1:30 発 5:25 着 Philippine Airlines PR538

（インドネシア空港～マニラ空港）

9:45 発 14:30 着 Philippine Airlines PR426

（マニラ空港～福岡空港）

○新幹線（博多駅～新八代駅）

4月23日（日） 16:15 発 17:05 着 さくら415号

※福岡空港～博多駅及び新八代駅～自宅までは、タクシーを利用

【受診した医療機関】

○本田クリニック（八代市） 4月25日（火） （9時頃受診）

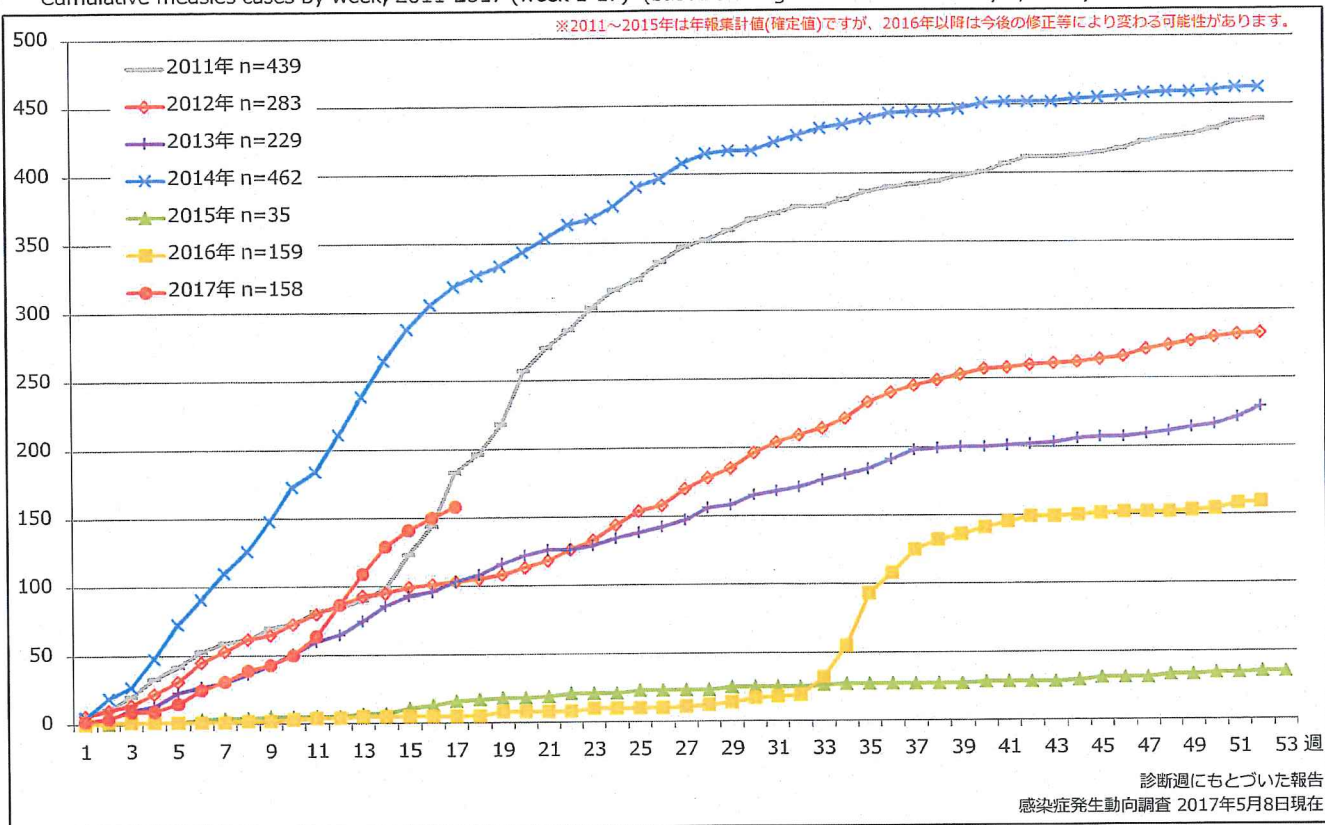
○独立行政法人 地域医療機能推進機構 熊本総合病院（八代市） 4月27日（木）
（11時頃受診）

【上記交通機関、医療機関を利用された方へ】

- ・症状から「麻しん」が疑われる場合、必ず事前に医療機関に連絡の上、すみやかに受診してください。
- ・受診の際は、公共交通機関等の利用を避けてください。

1. 麻疹累積報告数の推移 2011～2017年 (第1～17週)

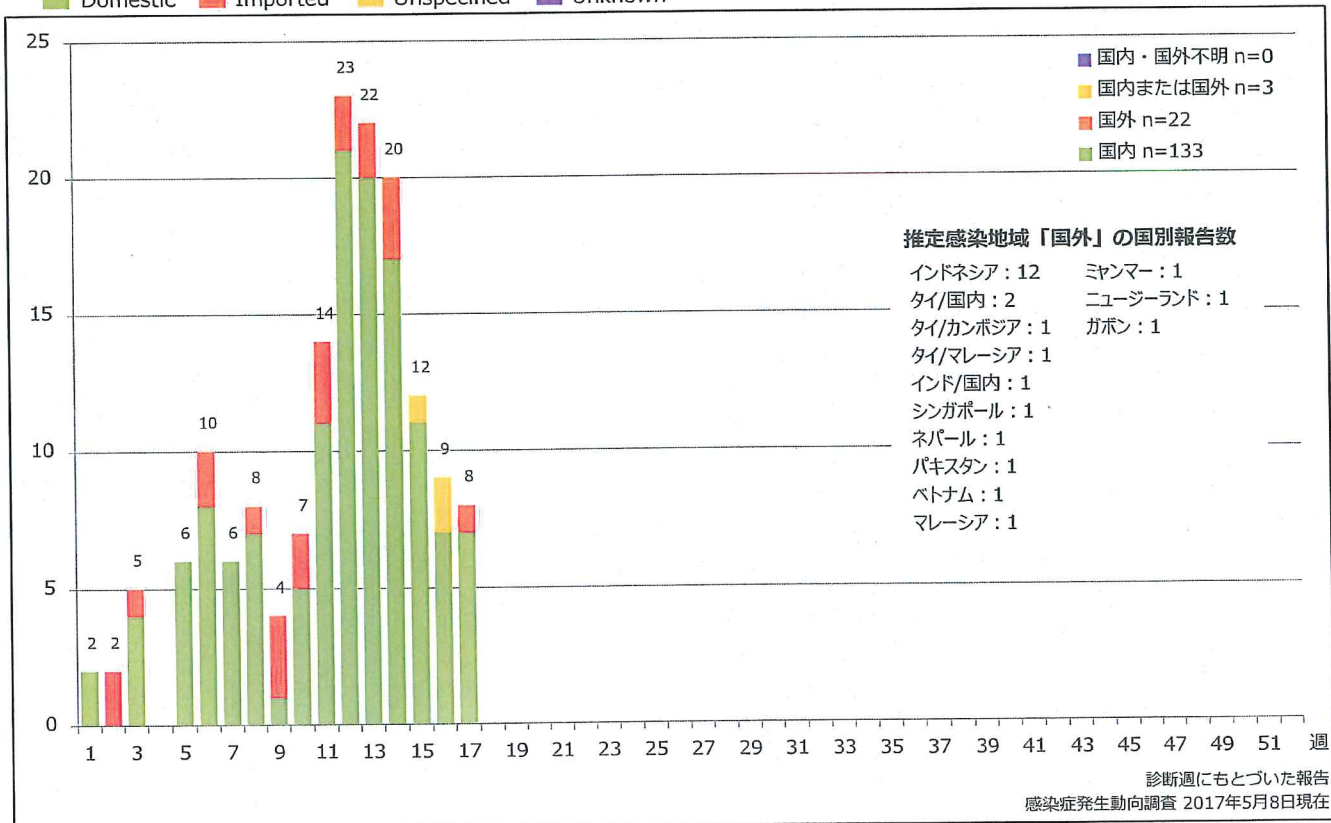
Cumulative measles cases by week, 2011-2017 (week 1-17) (based on diagnosed week as of May 8, 2017)



8. 週別推定感染地域(国内・外)別麻疹報告数 2017年 第1～17週 (n=158)

Weekly measles cases by acquired region, week 1-17, 2017 (based on diagnosed week as of May 8, 2017)

Domestic Imported Unspecified Unknown



病原体はどれくらい
感染力をもっている??

集団免疫率と基本再生産数

「集団免疫」とは、集団の構成員の一定数が免疫を獲得すると、集団の中に感染患者が出ても流行が阻止され、その結果、集団の中の免疫を持たない人への感染を防げることを意味しています。集団免疫を獲得できるレベルは、病原体の感染力によって異なります。この「病原体の感染力」を示す指標が「基本再生産数(R_0)」です。

代表的な感染症の基本再生産数と集団免疫率

感染症	基本再生産数 R_0	集団免疫率(%)
麻疹	16~21	90~95
ムンプス	11~14	85~90
風疹	7~9	80~85
水痘	8~10	90?
ポリオ	5~7	80~86
天然痘	5~7	80~85
百日咳	16~21	90~95
インフルエンザ	2~3	50~67*

出典：国立感染症研究所 感染症情報センター *小学校の集団
平成20年度 感染症危機管理研修会プログラム4資料

基本再生産数(R_0) Basic reproduction number

1人の感染者が周囲の免疫を持たない人に感染させる(=再生産する)2次感染者の数。

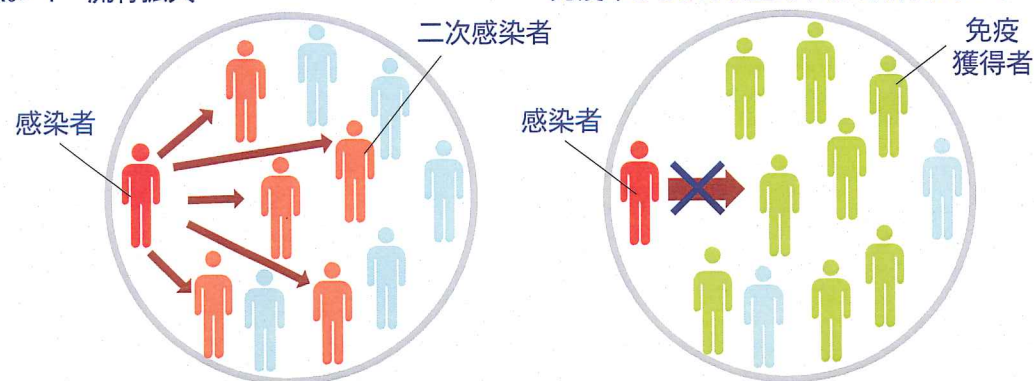
$R_0 < 1$...流行は自然に消滅
 $R_0 > 1$...流行は拡大

集団免疫率(H) Herd immunity

ある集団においてどれくらいの割合の人がその感染症に対する免疫を持っていれば、集団の中での感染が阻止されるかを示す。

$$H = (1 - 1/R_0) \times 100$$

【例】 基本再生産数(R_0)=5 → 【例】 集団免疫率(H)=80(%)
 $R_0 > 1$ 流行拡大 免疫率が80%以上あれば、流行しない。



感染症の流行を起こさないためには、免疫をもたない人にワクチン接種を行い、
集団免疫率よりも高い免疫率を維持する必要があります。



企画編集：一般財団法人 阪大微生物病研究会 (<http://www.biken.or.jp>)
発行：一般財団法人 阪大微生物病研究会／田辺三菱製薬株式会社

▲上記本文中のホームページの内容に関するお問い合わせは、お受けしていません。



5BI-336A-

ゴールデンウィークに海外へ渡航される皆さまへ！

ゴールデンウィークには多くの方が海外へ渡航されます。

海外に渡航される方に、注意してほしい感染症や予防対策について情報提供いたします。

出発前に確認しておきたいこと

- ・渡航先で流行している感染症について: [新着情報](#)、[最新ニュース](#) (医療関係者向け)
 - ・渡航先の情報について: [国・地域別情報](#)
 - ・渡航先での医療機関情報について: 外務省ホームページ ([海外安全対策](#) [世界の医療事情](#))
- ### 旅行中に注意すべきこと

海外では、日本にはない病気がたくさんあります。海外旅行では、時差や気候の違いなどから、(自覚していなくても)様々なストレスを受けます。この結果、免疫力が低下し、病気にかかりやすくなってしまいます。一生治療を続けなければならない病気もあります。無理のないスケジュールを心がけ、避けられる危険を避け、楽しい旅行にしましょう。

- ・生水・氷・カットフルーツの入ったものを食べることは避けましょう。
- ・食事は十分に火の通った信頼できるものを食べましょう。
- ・蚊・ダニに刺されないように、服装に注意し、必要があれば虫よけ剤を使うなどしましょう。
- ・動物は狂犬病、MERSや鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあるので、無暗に触らないようにしましょう。
- ・薬物やゆきずりの性交渉で感染し、一生の後悔をすることのない行動をとりましょう。

帰国時・帰国後に具合が悪くなったら

帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、最寄りの検疫所にご相談ください。

帰国後に症状が出た方は、病院受診の際に渡航歴を必ず話してください。受診方法で分からないときには検疫所または保健所にご相談ください。

参考になるリンク集

厚生労働省

ゴールデンウィークにおける海外での感染症予防について

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/travel-kansenshou.html

外務省

海外安全ホームページ(スポット情報)

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

感染症別情報

国立感染症研究所 感染症疫学センター

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>

◆ FORTH [お役立ち情報](#)